

令和 5 年度 事業計画

吉 備 国 際 大 学

吉備国際大学

I. 建学の理念・教育目標の具現化について

1. 大学の使命・目的及び教育目標の周知徹底

吉備国際大学は、開学以来「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、地域密着型総合大学として、地域に根差した人材の育成に取り組んできた。また、国際化時代を予見し、開学当初から留学生を積極的に受け入れるとともに海外の大学と教育交流協定を締結し、教育・文化交流を図ることにより、学生に国際性を備えた豊かな人間性を身につけさせることに努めてきた。本学の教育の特色と強みはこれからも「地域連携・地域貢献」と「国際化」にある。

開学30周年を迎えた2020年に、建学の理念をより具体的に実現するべく、吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を新たに策定した。このブランドビジョンにより、本学が育成する能力を具体的な三つの力で表し、各学科においてそれぞれをディプロマ・ポリシーに明確に定めて教育を行っている。本学はこのブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

【教職員に対する周知】

1. ガルーントップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョンを表示して全教職員で教育目標を共有する。
2. 4月に自己点検・自己評価会議を実施して前年度の自己点検・自己評価を行うとともに、今年度の目標・計画の作成を行う。

【ステークホルダーに対する周知】

1. 学外に対しては、学生便覧や大学案内、ホームページ等のメディアの内容を充実させて周知する。
2. オープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式等の機会において説明を実施する。

II. 学生確保について

1. ブランディングの強化

学長を委員長とした「ブランディング実行委員会」を設置して、委員は各学科及び各部署の若手・中堅層を中心とし、職位を問わず優れた意見を改革に反映できる体制でブランディングを推進する。

【ブランドの周知と定着】

1. ブランドビジョン＝教育目標であり、それを具現化する本学の教育の特色が「地域連携・地域貢献」と「国際化」にあることを、あらゆる機会を通じて周知する。
2. インスタグラムなどのSNSを通して各学科の魅力を発信する。
3. ホームページは常に最新の内容に更新して、特に本学の教育の特徴である「地域連携・地域貢献」と「国際化」について積極的に発信する。

2. 入学者受入れ方針（AP）の明確化

【APに沿った学生の受け入れ】

1. 一般選抜前期A方式の中で学力の3要素を多面的・総合的に評価する選考方法を導入し、全学部対象で実施する。
2. 一般選抜C方式の中で、全学部を対象に国際化に向けた入学者選抜として資格・検定試験を活用し、英語の4技能を評価する。
3. 2025年度入学者選抜から、新学習指導要領に対応した選抜方法を年内に予告する。

3. 収容定員の充足

【収容定員充足に向けた募集活動】

1. ブランドビジョンを柱に各学部・学科の情報発信を行い、入学定員充足を目指す。
2. オープンキャンパス参加者を増やして、専願入試(AO総合選抜・指定校・特別推薦)の入学者を昨年以上に増やすために、高校訪問、進学ガイダンスや出張講義、独自の学校見学会などを行い、4月～8月までの広報活動を強化する。
3. Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、受験生等をホームページ等へ誘導してオープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。
4. 本学のホームページやインスタグラムでの情報発信を充実させていく。

【改組等による適切な学科編成】

心理学部心理学科、保健医療福祉学部理学療法学科及び作業療法学科を改組して令和6年度に開設する人間科学部の周知を今年度当初よりホームページ内に専用のバナーを設け、オープンキャンパス及び高校訪問でPRするためにリーフレットも作成して周知を図る。また、看護学科は学部名称を「看護学部」に変更を行うことで「看護師」養成を行っている大学であることを改めて周知する。さらに「高梁市特別奨学金制度」、「南あわじ市入学奨励金制度」の周知浸透を引き続き進める。

Ⅲ. 教育の充実について

1. 教育改善・向上

ブランドビジョン実現のための教育課程の見直しと充実

1. グローカル教育プログラム（仮称）の立ち上げ
本学の特色である“地域”と“国際”を軸とした全学的な教育プログラムを新たに立ち上げる。教養科目必修の「人間力育成科目」を起点とし、各学科の専門科目においてさらに学びを深める。課題解決型、体験型の授業手法で、失敗や成功の経験の中で課題解決力と自分ならできると挑戦する能力を養う。
2. 情報教育の推進
 - ①2022年度に導入したBYODの実態調査を行い、学科ごとに授業での活用目標値を設定する。
 - ②「AI戦略2019の育成目標」で、すべての大学生が必要とされるリテラシーレベルのデータ活用能力を身につけることを目標に、2022年度からの新教養科目で導入した「数理・データ活用科目」の内容の充実を図る。2024年度に、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に申請する準備を行い、このプログラムの履修率向上を図る。
3. 語学教育の充実
 - ①2022年度からの教養科目におけるネイティブスピーカーによる英語科目の内容の充実と履修者数の向上を図る。
 - ②外国語以外の学部(高梁キャンパス・南あわじ志知キャンパス)において、TOEIC Program IPテストの導入を検討する。

学修支援の強化

1. 学修時間の延伸に向けた方策の検討
 - ①関係委員会及び各学科において、学修時間を延伸する方策を検討し、検討結果を取りまとめて提案する。（例：アクティブラーニング実施、課題等の取り組ませ方の工夫など）
 - ②上記に取り組むためのFDを実施する。
2. 国家資格取得を目的とする学科において、国家試験対策について根本的に見直し、1年次から4年次までの体系的な国家試験対策を構築する。また国家試験対策を取りまとめて、学内外に情報発信する。
3. 外国人留学生の学修支援として、トップアップとボトムアップの両面から実施し、留学生全体のレベルアップを実行
 - ①「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に沿った外国人留学生に対する質の高い教育

プログラムを令和5年度中に構築し、申請を目指す。これにより、日本企業への就職意欲が高い留学生の受入れ体制の強化を図る。

②日本語能力が十分でない学生のための補習授業等の充実と参加率向上を図る。

4. 退学者対策の実施

①学力不足と学修意欲の低下を防ぐため、入学前教育及び入学後の基礎学力向上のツールとしての、kiuiドリルの妥当性について各学科の意見を聴取し検討する。また効果的な活用方法またはその他の方法について検討し、改善を行う。

②増加傾向にある留学生の退学・除籍について、留学生別科、学部それぞれの入学試験の見直し、在学中の進路指導の強化と学科との交流など、学修意欲の確認と向上に取り組む。

③精神的に問題を抱える学生の状況を把握し、支援策を実施する。

学修成果の可視化の推進と教育改善

1. アセスメントプランに基づき、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と改善に向けた取組を確実に実行する。アセスメントプランの内容については毎年検証し、見直しを図る。

2. 新たに導入した客観テスト「PROGテスト」について、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、改善に活用する。さらに学生への解説会を「キャリアデザインⅠ」の中で7月に実施するとともに、教職員向けの説明会も実施する。

3. 学修ポートフォリオの実施状況を検証し、内容の充実と活用の推進を図る。またキャリア教育との連携を検討する。

4. ルーブリック評価について、実施状況を確認する。

教育改善の取組みへの学生の参画

1. 各種アンケート結果について、学生へのフィードバックの方法を検討する。

2. 卒業する学生にカリキュラムについて意見を聴取して改善に取り組む「カリキュラムコンサルタント」について、協力可能な一部の学科で試験的に実施する。

大学院教育の転換と受入れの拡大

1. メディアを活用した授業手法について、通学制、通信制を問わず活用推進を検討し、社会人の学位取得、学び直しやリスキリングなど、様々なニーズに対応した教育課程や授業方法を検討する。

2. TAなどの活用を推進し、大学院学生に教育を担う者としての自覚や意識の涵養と、教育方法等について学ぶ場を提供する。

2. 学生支援の充実

学生の意見・要望への対応の強化

令和4年度、各キャンパスの学友会と理事長・学長との意見交換会を行い、施設設備、学生サービスに関して可能な件についての対応を行った。令和5年度については、意見交換会と共にユニバーサルパスポートのアンケート機能を活用し各キャンパスにおける学生から本学に対する意見・要望を幅広く集め対応していく。

学生の相談体制の見直しと充実

キャリアサポートセンター、教務部などの学生指導・支援部署との連携を通じた支援体制の再構築を図る。特に留学生に対しては、入学時のオリエンテーションからアルバイトなどの生活相談、成績に関する情報など共有しているデータを活用し入学から卒業までの流れを意識した支援に取り組む。

課外活動の活性化（クラブ活動）

クラブ活動全般の活動はコロナ禍以前に回復していることから、令和5年度は、学友会、学園祭実行員会のスタッフ増員、体育部会、文化部会など各組織全体の立て直しに取り組む。その過程で継承されてこなかった成文化されていない慣例などについての指導を行うことで組織の活性化を図っていく。

課外活動の活性化（地域社会との連携）

高梁キャンパスにおいては本学学生と地域社会の各種団体との交流をコロナ禍以前の規模に再開し新規に伊賀祭へ招聘するなどの連携強化に取り組む。また、南あわじ志知キャンパスについては、従来から続いている地域社会との連携を継続すると共に新学科開設に伴い新規の連携事業を展開していく。

キャンパス間交流の充実

令和4年度に続き、各キャンパスにおいて実施している学園祭への相互出展とキャンパスが立地する地域のPRに取り組む。また、各キャンパスにおいて実施している他の行事、インターナショナルフェスタ、ハロウィン、クリスマスなどの行事についても可能な限りの交流を行う。

3. キャリア支援の強化

キャリア教育の充実

学生の主体的・積極的なキャリア形成を支援してくため、1年次から3年次までのキャリア教育において以下の方策を重点的に行う。

1. 「キャリアとは何か」「大学で何を習得していくのか」を考え主体的に実行できるよう、情報提供や実践的なキャリア教育を行う。
2. 社会的及び職業的自立に必要な能力である基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリア・デザイン能力）を高める演習やグループワークを行う。
3. 就職活動に必要な情報の収集、業界研究・企業研究、各種書類の作成、試験や面接に関する知識やスキルを教授する。
4. 学生の主体的なキャリア形成や進路選択に活用するため、「キャリアデザインノート」や「キャリアプラン」の作成を支援する。

キャリア支援における連携体制の構築

学生及び採用企業のニーズや社会情勢の把握に努めながら、「就職率100%」並びに「就職・進学率90%以上」を目指し、以下の対策を重点的に行う。

1. オープンカンパニーやインターンシップへの参加を勧める。
2. 就職関連行事及び就職説明会等の周知を徹底し、積極的な参加を働きかける。
3. 動画やオンラインによる面接、グループディスカッションの対策を強化する。
4. 「キャリア開発Ⅱ」の授業も活用し、3年次生の就職活動や書類作成を実践的に支援する。
5. 日本での就職を希望する留学生に対して、積極的な情報提供や就職ガイダンスを行う。
6. 学生の能力や個性を卒業後のキャリアに活かすため、学生部と連携した支援を進める。

4. 図書館の活用

図書館環境の充実

図書館システムの更新が完了したため、運用を適切に行っていく。選択と集中を念頭に、物理的な受け入れ可能量をもとに紙媒体の除籍を進め、オンラインコンテンツへの移行も積極的に行う。

5. 学修環境の整備

施設・設備の整備

学修環境の整備について以下の通り実施を計画している。

常時安全に配慮し、老朽化した施設・設備の修繕を行うとともに、学生の満足度向上に資する環境整備を実施する。

- ・岡山キャンパスネットワーク整備【私立学校施設整備費補助金 ICT活用推進事業】
- ・南あわじ志知キャンパスネットワーク整備【私立学校施設整備費補助金 ICT活用推進事業】
- ・南あわじ志知キャンパス情報処理室機器更新
- ・南あわじ志知キャンパス海洋水産生物学科臨海実習施設整備
- ・高梁キャンパス 檜井サッカー場 人工芝張替更新
- ・高梁キャンパス 第2体育館北面修繕

IV. 研究推進について

1. 研究力の強化

1. 科学研究費補助金及び公的研究費、民間研究費への応募促進

- ①研究費公募説明会の充実、科研費申請書の作成研修会の開催と学内共同研究費の効果的配分により、科学研究費補助金の採択率の向上を目指す。
- ②公的研究費及び民間研究費の獲得を目指す。

2. 研究部門自己点検・自己評価の実施

研究部門自己点検・自己評価報告書を作成し、外部評価委員からの評価を受けると共に、その評価結果を研究活動の活性化に繋げる。

3. 研究成果の積極的な発信と研究交流の推進

- ①各教員が学会発表及び研究論文発表に取り組む。
- ②全教員が年2回のresearchmap更新を確実に実施し、研究成果を発信する。
- ③順正学園学術研究会を開催すると共に、内容を充実させ、研究交流の推進を図る。

2. 社会実装の推進

1. 産学官連携研究の推進

- ①産学官が連携した研究会の学部単位で設置を目指す。
- ②リサーチパーク研究発表会などを活用した学外との研究連携を推進する。

2. 研究成果の地域社会への実装

- ①地域貢献教育研究経費及びSDGs教育研究推進経費による地域志向研究を推進する。
- ②全学科が地域連携研究および地域社会の課題を解決目指した研究を推進する。

3. 研究倫理・コンプライアンスの充実

1. コンプライアンス関係規程および研究倫理関連規程を必要に応じて改定する。

2. 研究倫理教育を行い倫理違反ゼロを継続する。

3. 「公的研究費の不正使用防止に関する基本方針」、「公的研究費の使用に関する行動規範」、「公的研究費の不正使用防止計画」を教職員に周知すると共に「コンプライアンス教育・啓発活動実施計画」に基づきコンプライアンス教育・啓発活動を充実させ、コンプライアンス違反ゼロを継続する。

4. 動物実験への倫理的配慮

- ①動物実験の自己点検・自己評価を行い外部検証を受ける準備を行う。
- ②動物実験に関する教育を確実にを行い、動物実験への倫理的配慮を徹底する。

4. 安全への配慮等

1. 化学物質の管理

- ①化学物質についてのリスク管理を徹底し、事故等の未然防止に努める。
- ②毒劇物、麻薬類、放射性物質等について、法令に基づき管理を徹底する。

2. 組換えDNA実験等の安全管理

組換えDNA実験安全管理規程の確実な遵守を呼びかけ、DNA実験等の安全管理に努める。

V. 大学運営について

1. 持続可能性の追求

SDGs達成を目指した活動の推進

1. 持続可能性を志向した活動の推進

- ①全教員の研究活動をSDGsに紐付けし、持続可能性に寄与する研究の推進を目指す。
- ②大学の組織活動をSDGsのゴールに紐付けし、全ての活動を持続可能性に向ける。

2. 持続可能性に寄与する人材の育成

全ての授業をSDGsに紐付けし、持続可能性に寄与する人材を育成する。

3. SDGs活動の情報公開

SDGs活動の評価システム及び情報公開のシステムを構築する。

環境マネジメントの推進

1. エネルギー消費量の削減

- ①今後5年間にわたり年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を目指す。
- ②各キャンパス内の電灯のLED化を図る。なお、LED化の年次計画を作成し順次実施する。
- ③更なる環境教育の啓蒙活動により省エネ活動を実施する。
- ④2030年温室効果ガス排出量-46%(2013年度比)に向けた取組を行う。

2. 南あわじ志知キャンパスのEMSの再構築

2023年度に南あわじ志知キャンパスの学科新設があることから、南あわじ志知キャンパスにおけるEMS活動の推進と情報収集の継続的取り組みを行っていく。

3. 新入生に対するEMS教育の推進

新入生に対してEMS教育を実施し、全学生のEMS活動への参加を促進する。

2. 職能開発の強化

FD・SDの充実

本学の特色である「国際化」および「地域連携・地域貢献」を柱にし、授業内容および方法の改善に取り組み、教育研究活動等を適切かつ効果的に遂行するための組織的な研修の機会を設け、教職員の資質向上と能力開発に取り組む。このような職能開発を強化するために、建学の理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」を具現化し、更には教育目的「教育基本法および学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて学部・学科の学術研究領域に関する理論及び社会の問題を研究教授し、応用能力をもつ人格を陶冶することを目的とする」ならびに教育目標（ブランドビジョン）「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします」を実現するために、本学のFD・SDを充実させる。

具体的には、まず教育開発・研究推進・社会貢献の取組みを滞りなく進め、授業内容および方法の改善に向けて、全学的な研修の機会を設ける。更には、国際化および地域連携・地域貢献を推進し、大学運営に要する知識や技術を涵養するために適宜研修を行う。例えば、令和5年5月31日(水)には、教育開発・研究推進中核センター 研究推進部門が中心となって、コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を開催する。本研修会では、教職員が不正行為の防止や研究倫理に関する知識を身につけ、コンプライアンスおよび研究倫理の理解を深め、教職員の資質を向上させる。このほか、FD・SD推進委員会が主体となって、2023年度から学生らに導入したPROGテスト（学修の到達度を測る尺度）の内容やデータの活用方法に関し、教職員向け研修会を8月に予定している。その後、秋学期には、学科の特色に応じた教育力向上を目指して、2022年度から実施している学科別FD研修を検討している。更には、最近、メディア等でも話題になっているChatGPTの有効活用と不正対策を推進するために、教職員がChatGPTの理解を深め、今後の展望を思案するための研修を考えている。

3. 人権・安全への配慮の充実

労働環境の整備、充実

公益通報に関してコンプライアンス窓口を設けるとともに、通報者に不利益が生じないように公益通報者保護の制度を整備し、適切に機能させる。

人権関連の研修の充実

1. 岡山県大学人権・同和教育懇談会に参加し、人権教育推進のための教育・研究に取り組む。
2. 人権教育として、学生を対象とした研修会を実施する。
3. キャンパス・ハラスメントの防止、排除に向けた啓発活動を行う。

4. 法人部門との連携の円滑化

管理運営機関の連携と相互チェック

理事会には学長が理事に就任し、また評議員会には副学長、学部長、附属図書館長等の大学教職員が評議員に就任しており、学園の意思決定において大学の意見を述べる。

また、学園協議会により設置校間に共通する重要事項を協議し相互の連携強化と業務の円滑化を図る。大学協議会により大学の教学に関する重要事項の決定について理事会との意見調整を行い意思決定の円滑化を図る。事務部門においては、事務連絡会議により理事長、学長、校長参加のもと学園全体の各事務部門が情報共有を行うことで業務の円滑化を図る。

さらに、これらの理事会、評議員会、学園協議会及び大学協議会等の構成により相互チェックの体制を整備し、大学から法人経営に参画するなど相互チェック機能を適切に機能させる。

監事は理事会、評議員会に出席してその運営を監査するとともに、法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、意見を述べる。また、ガバナンス・コードにもとづき常勤監事1名を置き、会計監査や業務監査を実施してその結果を理事長に報告する。

5. 財政基盤の確立

中期的な計画に基づく財務運営と安定した財務基盤の確立

決算にもとづき現状に即した中期財務計画へと見直しを行い、学園の今後の財務状況の推移を適切に把握する。

収支バランスを確保するため学納金収入の増加、経費の削減に積極的に取り組む。令和6年度には吉備国際大学心理学部心理学科、保健医療福祉学部作業療学科及び理学療学科を改組し、新たに人間科学部人間科学科を開設することで収支の改善を図る。

また、吉備国際大学高梁キャンパスの高梁市・順正学園特別奨学金制度や、九州保健福祉大学及び九州保健福祉大学総合医療専門学校の令和6年度の名称変更を広報し学生定員確保を目指す。

6. 適正な会計処理の実施

職員の知識向上

学校法人会計基準に準拠し、学園の経理関係諸規程に則った適正な会計処理を行い、会計担当者は、私立大学協会主催の経理部課長相当者研修会をはじめ各種研修会に参加する。

令和5年10月インボイス制度について、取引業者への確認と各部局への説明会を実施する。

また、会計処理についても、ガルーンを活用し情報提供・情報共有し、適性かつ共通認識を持った会計処理を行う。

会計監査の厳正な実施

監査法人による期中監査・実査・期末監査を滞りなく実施する。

公的研究費については、監査法人の監査のほか常勤監事が科学研究費助成事業などに関わる経理関係の全証憑書類の確認を含めた厳格な監査を実施する。

諸規程に則った適正な会計処理

今年度の学校法人全体の予算編成方針に従い、各部門で目的別に積算し編成した予算をシステムに登録を行い、厳密に経費の執行管理を行い、効果的な予算執行を行う。

会計処理を行うにあたり、研究費の使用マニュアルを更新し会計処理のルール of 共通認識の徹底を行う。事務部門についても、ガルーンを活用し会計処理に関する情報提供を綿密に行い、より確実に適正な会計処理に努める。

VI. 内部質保証について

1. 内部質保証体制の確立

1. 内部質保証体制図に基づくPDCAサイクルの仕組みの確立

①第3期中期目標・中期計画に基づき、自己点検・自己評価を確実に実施する。

②自己点検・自己評価結果やその他のIR情報の結果報告を受け、内部質保証委員会において、改善の指示→改善計画の立案→実行というPDCAサイクルを実現させる。

2. IRを活用した十分な調査・データの収集と分析の実施

①アセスメントプラン等に基づき、各種調査の実施・分析結果の報告を確実に実施するとともに、改善計画の策定を行う。アセスメントプランについては毎年度検証を行い、見直しと充実を図る。

②BIツール（Qlik Sense）を用いて、収集した各種データの相関性などの分析を行い、併せてBIツールのテンプレート作成を進める。

③報告されたIR情報を整理し、いつでも確認と活用ができるよう情報共有を進める。

VII. 地域連携・地域貢献の推進について

1. 地域連携・地域貢献の推進

1. 「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組む。

2. 地域貢献推進センターを中心として、高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパスの3つの地域連携センターによる地域連携・地域貢献活動を実施する。

3. 地域貢献教育研究活動助成金を配分し、教員が担う地域貢献活動の活性化を目指す。

4. 自治体との間で連携協力協定の締結を推進する。

5. 地域貢献ボランティア活動を推進する。

2. 大学の持つ知の地域への還元

1. 公開講座の開催
 - ①公開講座を年間20講座以上開催する。
 - ②公開講座の受講者数のさらなる増加を目指す。
 - ③本学の卒業生のリトリート教育等も踏まえた公開講座のさらなる充実化について、公開講座委員会等で検討を重ねる。
2. 出張講義等
出張講義等、小中高等学校への講義を継続して実施する。
3. 学部単位でフォーラム、講演会等を開催する。
4. 大学コンソーシアム岡山の各事業への参画
吉備創成カレッジへの講座の提供、「日ようび子ども大学」へのブース出展などを行う。
また、大学コンソーシアム岡山のその他の事業へ積極的に参画する。
5. 高大連携活動「英語スピーチコンテスト」
高校生（岡山県・広島県内在住）を対象として実施する。
6. 地域連携・地域貢献活動の情報公開
「地域貢献活動記録」をもとに、大学の社会貢献や地域貢献に関する情報発信のあり方を改善する。具体的には、大学公式ホームページに地域連携に関する情報発信欄を新たに設け、学内外に向けた情報発信をより充実させる。

3. 地域貢献人材の育成

1. 全学科が地域課題解決人材を育成する授業を2科目以上、専門教育科目の中で開講する。
2. 地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」の開設を目指す。

VIII. 国際化の推進について

1. 国際化に向けた科目内容の充実

1. 国際化に向けた英語学習の充実と異文化・国際事情理解の推進
 - ①本学の特色である“地域”と“国際”を軸とした全学的な教育プログラムを新たに立ち上げる。教養科目必修の「人間力育成科目」を起点とし、各学科の専門科目においてさらに学びを深める。課題解決型、体験型の授業手法で、失敗や成功の経験の中で課題解決力と自分ならできると挑戦する能力を養う。
 - ②2022年度からの教養科目におけるネイティブスピーカーによる英語科目の内容の充実と履修者数の向上を図る。
 - ③専門科目において、専門分野の国際的な動向や国際理解を深める科目の導入を促進する。
カリキュラム改正に合わせ、対応科目の増加を検討する。
2. 海外留学・短期研修の促進
 - ①海外留学・短期研修プログラムを充実させ、外国語学部以外の参加学生の増加を図る。
 - ②外国語以外の学部（高梁キャンパス・南あわじ志知キャンパス）において、TOEIC Program IPテストの導入を検討し、海外留学に向けた英語力向上の意欲を高める。
3. 留学生に対する学修支援の充実と生活環境の整備
 - ①日本語能力が十分でない学生のための補習授業等の充実と参加率向上を図る。
 - ②生活基盤の安定化を図る支援（市民生活・住宅・アルバイト情報の提供等）を促進する。
 - ③留学生の母国語対応による支援体制の充実を図る。

4. 国際社会で活躍できる職能教育と留学生に対する就職支援

- ①「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に沿った外国人留学生に対する質の高い教育プログラムを令和5年度中に構築し、申請を目指す。これにより、日本企業への就職意欲が高い留学生の受入れ体制の強化を図る。
- ②留学生を対象とした授業科目「キャリア開発Ⅰ・キャリアデザインⅠ」において、社会的自立と職業的自立に向けて、自らの生き方・働き方を計画資実行できるようになるために、日本での生活に必要な知識やスキルを身につけさせる。

2. 国際交流の充実

令和5年度より高梁キャンパスにおいて開催しているインターナショナルフェスタに地域の小中学校を招聘し地域社会全体を視野に入れたの国際交流活動に取り組む。さらに、在学生に対して海外留学を奨励すると共に海外からの留学生、研修団の受入れに積極的に取り組む。

社会科学部の計画

学生確保

経営社会学科では、相当数の留学生を確保するため、特に、別科の学生に対して、学科内容を直接伝える取り組みを行い、志願者確保と、退学者防止を行う。日本人学生の確保については、現代的なマネジメント実務能力の育成を打ち出す。スポーツ社会学科では、定員確保の効果的取り組みとして、運動部活動の充実に取り組む。

教育の充実

学部全体のコンセプトとして、国際的視野に立つ、社会のイノベーションを標榜する。経営社会学科では、先端的マネジメント実務能力の育成を行ない、かつ入学動機の精査に基づく学修支援を行う。スポーツ社会学科では、アスリートの特性を踏まえた教育を行い、スポーツに関連した分野の広範なキャリア教育を行う。

研究推進

国際色を持つ経営学科として、先端的な産業分野を対象とした研究を推進する。産学官の共同研究プロジェクトを推進する。スポーツで個人と社会の健康と生活に貢献する研究の推進を行う。

地域連携・地域貢献の推進

本学部では、両学科が既に、相当数の地域連携・地域推進活動を実施している。今後は、これらを学部内で情報共有し、学部として、共同で取り組める活動を模索する。また、こうした活動の、社会への発信を強化する。

国際化の推進

多くの留学生を抱える本学部である。この点を活用し、学内での日本人学生と留学生との交流を促進する。スポーツにおける、留学や海外研修を、従来のように促進する。国内外のスポーツ国際交流事業への参画を推進する。

経営社会学科の計画

学生確保

- ・新入生定員の確保を目指す：日本人学生50%、留学生50%
 - ①日本人入学者アップ、②留学生別科との連携・接触性強化、③オープンキャンパス改善、④ホームページ改善、⑤新入生アンケート調査（本学科入学の決め手を探る）、⑥学科の特色・ウリが伝わるパワーワード、キャッチコピー

教育の充実

- ・教育課程の改革：コース、カリキュラムの見直し、改善
- ・退学者・不適応学生の対応と対策：①入学者選考の在り方の見直し、②学生の交流機会や共通体験を増やす、③不適応学生への対応のシステム構築（学科内外）、④インターンシップなどのプログラムの充実化、④社会調査士・日本語教員養成充実化

研究推進

- ・実用的かつ学際教育に繋げる研究：現地調査と学際領域研究の強化
 - ①教育現場・実社会で使える実用的な研究をさらに進めてゆく、②年一回以上、学会に出席し、発表する、③研究成果の可視化（論文・書籍の執筆、発表など）、④「地域」と「国際」を繋げる学際領域（グローバル）研究を奨励する。

地域連携・地域貢献の推進

- ・昨年度と同様に、様々な地域連携・地域貢献の促進
 - ①地域連携・地域貢献活動の内容点検と改善、②インターンシップが行いやすい地域連携の仕組み作り、③多様多角的な地域貢献事業と高・大連携の強化、④地域関連の専門委員などへの参加を促す。

国際化の推進

- ・留学生、海外インターンシップなどのプログラムの充実化
- ・国際化、多文化理解・多文化共生社会、留学生とともに学ぶ
 - ①留学生の学びを学内全体ひいては高梁市とも協力して支援し、日本人学生とも本学で多文化理解が深まるように取り込む。
 - ②多文化理解・多文化共生を学ぶことができる場を提供する。

スポーツ社会学科の計画

学生確保

- ① 入学定員確保のために入試広報課と連携
 - ・入試広報課と連携し、過去10年間の入試データ、各種資格関連データから本学科の強みの部分を明確にし、広報活動に役立てる。
- ② 情報発信活動
 - ・昨年度と同様、今年度においても情報発信(Facebook、Instagram)を積極的に実施する。
- ③ 広報活動
 - ・オープンキャンパス(OC)に来校した生徒の本学科への受験率が高いことからOCの更なる充実を図ると共に、OCに来てもらえる工夫が必要である。入学者数、OCに来校する生徒が減少していることから具体的な対策が急務である。スポーツに関わる学科特性として、高校進路指導担当者に加えて保健体育教官室への情報提供が必須である。課題に対する向上方策として、入試広報課と連携し、保健体育教官室(岡山県、広島県、島根県、鳥取県、高知県、愛媛県)、既卒生で教員をしている先生宛に郵送物を配布(OCの案内、入試情報等)する。郵送に関して入試広報課と情報共有し、慎重に進めていく。
 - ・健康教室、体力測定などの地域貢献に関する内容は保護者受けは良いものの、高校生にはイメージがわきにくい印象をうける。高校生は自身のスポーツを中心に考えていることから、OCでは高校生向けの話と保護者向けの話を分けて説明を実施する。OC時に保護者ならびに生徒からの在校生評価が高いことから、OC時には各強化クラブ学生に加えて、各コースの学生、教職の学生、大学院生の協力をあおぎ、OCを活発化させる。
 - ・現在、部員数が激減している強化クラブの男子サッカー部強化に関して、学科として対応可能なものに関しては、積極的に介入し、サポートする。

教育の充実

- ① 退学者対策
 - ・学者対策については、教務課との連携に加えて、学年を超えたつながりがもてるような取り組みが必要である。GPAが低い学生、欠席が多い学生に関しては、今まで以上に早い段階での面談、個別指導が必要である。本学科での学びが将来の職業にどのように展開していくかを1年次から具体的な事例をだしながら進めてく。例年実施していたチューター、学年、部活動の枠を超えたレクリエーションや食事会を再開する。
- ② 各種資格試験、教員採用試験における合格率向上に向けた支援体制システムの構築
 - ・教職を除く資格については受験者数が激減している。各種資格の説明に加えて、資格と就職との関連性についても具体的な事例を出しながらの説明を実施する。
 - ・教職に関しては、目的によってモチベーションが異なることから、各目標に対応した指導方法が必要である。また、入学時の教職希望者が途中離脱するケースも見受けられることから、教員という職業に対する素晴らしさ、やりがい、楽しさを経験できる取り組みを1年次から実施する。
- ③ その他
 - ・新カリキュラムについて:再来年度にむけて新カリキュラムを導入するが、学生に不利益が生じないように注意し、今以上に魅力あるカリキュラムを展開していきたい。
 - ・学生間におけるコミュニケーション能力の養成について学生生活の充実のために、部活動のつながりに加えて、演習科目やイベントを中心に「縦・横・全体のつながり」を強化していきたい。
 - ・学力の二極化について:学科における学生の学力格差が年々広がっている。KIUIドリルに加えて、新たなテキスト等も検討し、初年次教育に力を注ぐ。
 - ・スポーツマネジメント教育の強化:本学科の特徴の一つに女子プロサッカーリーグに参戦している吉備国際大学Charme岡山高梁の監督が本学科の教員であること、本学科に選手が多いことがある。吉備国際大学Charme岡山高梁と本学科の連携により、Charmeの運営、体力測定、コンディショニング、トレーニング指導、マネジメント業務補助等でスタッフ参加して、実務経験を積めるプログラムを展開できるかを検討する。本プログラムは学科独自の特徴となり、他大学との差別化を図れるものと考ええる。

研究推進

- ・若手教員を中心とした勉強会を今年度も実施する。共同研究者の有無に関わらず、科研費等の競争的資金への取り組みサポートとして、科研費等の学部資金獲得者の申請書記載内容を共有し、教員間で確認し合いながら申請書のブラッシュアップが行える環境を整える
- ・国内外に多くの知見を発信できるよう、継続的に研究が実施できる時間の確保、環境整備に取り組む。

地域連携・地域貢献の推進

- ・今年度も引き続き行政と連携し、高梁市民の健康寿命延伸に貢献したいと考えている。新たな新規事業の展開として、子育て世代の母親を中心とした運動指導に挑戦する。一方、参加者が持続的に運動できる環境がないことから、解決に向けて継続的に大学、行政と議論していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のために多くの講座が中止となったが、今年度は実施予定であることから、積極的に地域連携・地域貢献を推進していきたい。

国際化の推進

- ・本学科では、語学、専門性強化、スポーツを通して海外で活躍している既卒生がいることから、まずは海外で活躍している既卒生の現状把握をすること、既卒生の「声」をオンライン講演会などを通して実施したいと考えている。海外短期留学等も促進する。

保健医療福祉学部計画

学生確保

- 【目標】定員充足率100%ないしは極力近づける。
【計画】受験生、保護者、進路指導教員等の大学選択のキーとなる対象に各々にとって魅力的な情報を提供する。手段としてオープンキャンパス、高校内ガイダンスやTwitter、Instagram、YouTube等のSNS、ホームページを活用し、タイムリーな情報発信を強化する。

教育の充実

- 【目標】国家試験合格率100%を達成する。退学者を減らす。
【計画】全教員が連携して、1年次から4年次まで計画的に国家試験対策を充実させる。3学科連携して国試対策を行う。退学及びそれに繋がる不適応予防のための対応をきめ細かく行う。

研究推進

- 【目標】各教員が研究活動に積極的に取り組み競争的資金獲得を目指す。
【計画】教員間で積極的な学術交流を行い、研究の活性化を図る。また、研究推進するために競争的資金の獲得に向けて、科研費等の応募を積極的に勧める。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携・地域貢献を推進するとともに、教育を通じて地域連携・地域貢献に有意な人材育成に取り組む。
【計画】教員・学生による高梁市及び市内等関連団体との連携・貢献を推進し、大学教育活動を通して地域連携・地域貢献に有意な学生の育成に取り組む。

国際化の推進

- 【目標】機会を捉え国際化に通じる取り組みを推進する。
【計画】授業内での国際的視点の教育に加え、学内の国際交流事業への参加や、留学生受け入れ、希望学生の海外留学、短期研修参加の準備や支援を促進する。

看護学科の計画

学生確保

目標：定員充足率（学部生80%、編入生100%）を目指す。
計画：「高梁市と吉備国際大学があなたの学生生活を支えます！」をキャッチフレーズとし、OC、高校ガイダンスで本学科の魅力を広報し、SNS、学科HP等でタイムリーな情報を発信する。

教育の充実

目標：国家試験合格率（看護師・保健師）100%・就職率100%を達成する。
計画：全教員が連携して、1年次から計画的に国家試験対策に取り組む。キャリアサポートセンターとの連携を密にして、就職試験対策を充実する。

研究推進

目標：各教員が研究活動に意欲的に取り組み研究業績を上げ、科研費採択を目指す。
計画：各教員が学内外の学術交流を積極的に行い、新規科研費獲得に向けて取り組む。

地域連携・地域貢献の推進

目標：高梁市との地域連携・地域貢献を推進していく。
計画：高梁市役所、看護協会高梁支部との連携活動に継続して取り組む。高梁市内の医療機関での臨地実習を通じ、地域貢献に有為な人材を養成する。

国際化の推進

目標：学内の交流事業に参加し、外国人留学生、日本人学生との交流活動を推進する。
学生の希望に応じて、海外留学、短期研修参加支援を促進する。
計画：学生に学内交流事業参加を指導する。学生の留学、研修参加ニーズを把握し支援する。

理学療法学科の計画

学生確保

- 【目標】 定員充足率100%
- 【計画1】 大学HPへのアクセス増加とOC参加者の増加
 - ① 広報学生によるインスタ内容を中高生へ響く内容にする。
 - ② 教員と学生間の議論を増やし、他大にはない差別化ポイント、高梁の魅力、学内の勉強や昼食の様子を発信する。
- 【計画2】 ターゲット別の具体的なPRの徹底
 - ① 高校生に響くインスタ内容を増やす。女子高校生にも響く内容を増やす。
 - ② 高校の進路指導者に新専攻の果たす教育意義と定員40名のメリットを説明する。
 - ③ 保護者に充実した教育内容、安心安全、学費のメリットを十分に説明する。
- 【計画3】 実習機関に勤務する関係者へのPRの実施
 - ① 実習地訪問時に十分に触れ込む。
 - ② 6月に学科新体制の挨拶ハガキを送る。

教育の充実

- 【目標】 国家試験合格率100%、および退学者発生の防止
- 【計画1】 教育内容の改善の実行
 - ① I R 委員会および国試合格スキル向上委員会を設置する。
 - ② 学科ビジョンを作成し、教育の質改善に関する意思決定をスピードアップする。
 - ③ 作業療法学科と連携し、「基礎演習科目」と「国家試験対策」を改善する。
 - ④ グループ学習に備えた場を整備する。
 - ⑤ 専門科目における工夫（「専門基礎復習」「実習基礎スキル向上」等）を行う。
 - ⑥ 教員間の学生情報の共有を強化し、実習地からの信頼も高める。
- 【計画2】 退学予防の追加
 - ① 5年目の「再履修生」と信頼関係を構築する。
 - ② 再履修生が置かれている状況を分析しオンラインで勉強を早期に着手させる。
- 【計画3】 不適応学生の発生予防の工夫
 - ① 基礎演習科目を「成長を感じられるよう」に改善する。
 - ② 習熟遅れ、不本意、メンタルや学習課題を抱えている学生を1年次に発見する。
 - ③ 2年生の基礎演習では、習熟の遅い学生に対する対応を講じる。
 - ④ 実習の不適応に対して、プロパー間の情報共有を増やして対応する。

研究推進

- 【目標】 競争的資金獲得の増加
- 【計画】 科研費、民間助成金の獲得に向けて応募件数を増やす。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】 教員による地域貢献活動の増加
- 【計画】 ① 臨床実習指導者講習会、新興感染症対策委員会等への参画を継続する。
- ② 研究課題を通じた新たな地域連携を開拓する。
- 【目標】 地域連携に通じる専門科目教育の増加
- 【計画】 ① 1年生は「中山間地域健康増進演習」で住民ニーズの把握方法と自然災害時の被災地支援方法を学ぶ。
- ② 2年生はインターナショナルフェスタに参加する。

国際化の推進

- 【目標】 国際化に通じる専門科目教育の増加
- 【計画】 3年生に「理学療法管理学」「国際貢献・地域理学療法学」等で視点を教える。

作業療法学科の計画

学生確保

- 【目標】定員充足率100%を目指す。
【計画】高校内ガイダンスとオープンキャンパスを強化し、受験生、保護者、進路指導教員に本学を選択してもらえるよう魅力的な情報を提供する。また、受験生、保護者、進路指導教員向けに、Twitter, Instagram, YouTube等のSNSを活用し、情報発信を強化する。

教育の充実

- 【目標】作業療法士国家試験合格率100%を達成する。年間退学者2名以内を目標とする。
【計画】1年次から4年次まで国家試験対策を充実させる。特に4年次は9月の夏季休暇中から国試対策を実施する。看護学科、理学療法学科との国試対策の連携を行う。退学防止のためにチューター1名、副チューター2名の体制で学生指導を強化する。

研究推進

- 【目標】教員各自で研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。
【計画】教員間で積極的な学術交流を行い、研究の活性化を図る。また、研究推進するために競争的資金の獲得に向けて、科研費等の応募を積極的に勧める。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携・地域貢献を推進し、人材育成に取り組む。
【計画】高梁市バレー教室、認知症サポーター養成講座及び認知症サポーター連絡協議会、ワークシェアリング就労支援プロジェクト、グリーンヒル順正等による園芸療法実践等の取り組みを継続する。授業等を通して地域連携・地域貢献に有為な人材育成を行う。

国際化の推進

- 【目標】短期留学受入準備を進める。
【計画】フィンドレー大学から作業療法学科の短期留学受入について打診があったことから、それを実現するために日程調整、短期留学のプログラム作成などに取り組む。今年度と同様に「グローバルスタディーズ入門」受講による国際化を学ぶ。

心理学部の計画

学生確保

子ども発達教育学科は募集停止のため、学生確保の取り組みは、心理学科を参照。

教育の充実

- ①教員免許状や保育士資格、公認心理師受験基礎資格等の資格取得を目指す学生には、目指す資格がとれるように支援する。
- ②子ども発達教育学科においては、最後の卒業年になるため、全員確実に卒業できるよう取り組む。

研究推進

- ①教員間の学術交流を活発にして、新しいテーマの開発や研究フィールドの拡大に繋げる。
- ②通信教育技術を活用した教育実践に関わる研究に関しては、両学科及び教職センターとの情報交換を行いながら進めていく。

地域連携・地域貢献の推進

- ①現状の地域連携・貢献活動をより活発に継続・展開していく。

国際化の推進

- ①日本人と留学生間の交流を促すような学部・学科企画を計画・実施することで、お互いの文化の理解や人間関係の形成を促進する。

心理学科の計画

学生確保

- ①『人間科学部人間科学科心理学専攻』への改編にあたって、人間科学の中核は心理学であることを強調した広報活動を展開する。
- ②出張講義・校内ガイダンス・模擬授業・見学などにはすべてに対応するとともに、心理学の面白さを伝えるよう努力する。
- ③オープンキャンパスでは、とにかく安心して楽しんでもらえる環境を提供する。

教育の充実

- ①公認心理師基礎受験資格や教員免許状の取得希望者への細やかなサポートにより、希望者全員が資格取得できるよう取り組む。
- ②留学生の学力向上は非常に大きな課題である。日本語学修の強化とともに、より一層、わかりやすい授業を工夫することが必要である
- ③精神的な問題を抱える学生も多いため、教員間・学内外の関係者との情報共有や可能な限りの配慮・サポートにより、退学率を5%程度に抑える。

研究推進

- ①科研費や民間助成金の獲得に向けた取り組みを促進する。
- ②学内・学外研究者との共同研究の実施により、研究活動の活性化を図る。

地域連携・地域貢献の推進

- ①例年通り、高梁市の教育委員会や岡山県教育委員会、岡山県備北保健所との連携で、いじめ・不登校に関する教育相談やスクールカウンセリング、乳幼児健診、発達障がい児のアセスメントなどでの活動に取り組む。

国際化の推進

- ①留学生と日本人学生との交流を活発化させるイベントを計画・実施していく。
- ②教職課程の授業では紹介している「国際バカロレア」の理念・プログラムを学科学生にも提供し、国際人としての視点について目を向けさせる。

子ども発達教育学科の計画

学生確保

募集停止のため無

教育の充実

- 【目標】教員採用試験、保育士資格等希望者全員の合格や取得を目指す。留学生も含め、履修単位を修得し全員卒業する。年間退学者0名、就職率100%を継続する。
- 【計画】電子黒板、タブレット端末を活用した授業の充実を図り主体的、対話的な授業とする。教職対策講座を学生主体の内容に変える。学生情報の共有に努める。

研究推進

- 【目標】各教員が研究活動に積極的に取り組む。論文、講演などを通し社会貢献する。
- 【計画】県教育委員会、小・中学校等の要請を受けたら可能な限り応じ、研究内容を学校現場へ還元すると共に、往還的に研究を深める。研究成果を可視化する。（論文、執筆、発表など）

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携・地域貢献を推進し、学生による教育活動を充実する。
- 【計画】高梁市内の幼稚園への読み聞かせ活動等、交流活動を積極的に行う。インターンシップ制度を活用し、小学校の教育活動を支援する。

国際化の推進

- 【目標】国際化に通じる授業内容の充実を図る。
- 【計画】「教職実践演習」「教職対策講座」等で、日本と世界の教育制度、教育事情等の理解を深める。「総合的な学習の時間」を通して、アメリカのSTEM教育、クロスカリキュラム等を紹介しながら国際理解の観点で実施されている単元計画を学修する。

農学部計画

学生確保

目標：受験生目線での学生確保活動を行い定員充足率100%を目指す。
計画：受験生の不安を取り去るために、受験生に年齢の近い在学生との交流の機会を増加させ、学科の情報はもとより、学生生活の情報も発信できるようにする。明るいキャンパスライフがどのようなものかを強調できるようにオープンキャンパス等の計画を行う。新設した海洋水産生物学科の情報が少ないため、計画中の水産関係研究所の情報も含めさらに詳しく受験生に説明できるよう努力する。

教育の充実

目標：明るい教育環境の提供により退学率0%を目指す。
計画：2023年度から地域創成農学科と醸造学科が統合し、さらに海洋水産生物学科が開設されるため、カリキュラムの大幅な変更をおこなった。スムーズな新カリキュラムに移行できるよう努力する。また、2022年度以前の地域創成農学科、醸造学科双方に所属する学生にはこれまで通りのカリキュラムを適用し、学生の不安が無いように教育を進めていく。さらに、教員と学生の距離を縮めるために、チューターと学生の組み合わせをこれまで半期で変更していたが、年単位でのチューターの変更を行い、年間通じたシームレスな関係を構築する。

研究推進

目標：外部資金の更なる獲得
計画：農学部全体を考えて、新しい分野のプロジェクト計画とその実施を行い、研究活動の活性化を図りたい。

地域連携・地域貢献の推進

目標：地域連携活動の更なる拡大。
計画：現状の取り組みを継続しながら、海洋水産生物学科の新設にともない、より広範囲の地域連携活動を行う。また、コロナ感染拡大の沈静化に伴い、淡路地域の活性化が予想される。そこで、新しいプロジェクトなどの活動を計画する。

国際化の推進

目標：留学生との交流の促進。
計画：今年度と同様に留学生と日本人学生との交流を活発化するイベントの計画を行い、相互の文化の理解を進めていく。

地域創成農学科の計画

学生確保

- 【目標】新入生の定員充足率100%を目指す。
- 【計画】在学生在主体的に活躍するオープンキャンパスを実践し、高校生や保護者にとって、親しみやすく、キャンパスライフを実感できる場を提供していく。また、高校ガイダンスや出張講義等で、本学科の多様な取組を紹介し、その魅力を発信していく。従来からの問題である女子学生比率の少なさの解消を目指し、SNSを活用し女子学生志望者の増加を図っていく。

教育の充実

- 【目標】実習講義の充実および座学講義との連携。
- 【計画】これまでも本学科では、実習・実験講義を重視し創意工夫を凝らして推進してきた。本年度からは、実習科目とそれに関連する座学科目を連携・補完させ、原理と実践の両面から学習体得することで、学生の理解度と満足度をより高めることのできる講義体系の構築を目指す。

研究推進

- 【目標】共同研究の推進と外部資金の獲得
- 【計画】学内外にとらわれず共同研究を推進していく。特に、農学部では海洋水産生物学科が開設されたことから、新学科と積極的に連携し共同研究を提案実践することで、互いの特色を活かし、科研費など競争的資金の獲得に繋げていく。また、学会や学術誌での成果報告を推奨していく。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携活動の見える化
- 【計画】その名の通り本学科では、数多くの地域連携活動を行っている。その反面、活動内容やその成果に関する情報発信は十分であるとは言えない。そこで、WebやSNSを通じて、地域社会に分かりやすく発信し、本学科の意義を伝え知名度を上げていく。本学科の弱点である地元学生の少なさを解消していく上で重要な取組と考える。

国際化の推進

- 【目標】留学生受入れ態勢の強化
- 【計画】本学科では留学生数が少なかったこともあり、そのフォローアップ体制が万全であるとは言えない。そこで、教職員や日本人学生との交流を積極的に促進し、留学生がストレスなく学生生活を送れる態勢を整えていく。また、他学科の留学生を学部イベントに招くことで、本学科学生が文化的多様性の理解を深める場を提供していきたい。

海洋水産生物学科の計画

学生確保

【目標】定員充足率100%を目指す。

【計画】オープンキャンパスを強化し、受験生、保護者、進路指導教員に対し魅力的な情報を提供する。また、SNSを活用することにより、教員に加え学生からも情報発信を行い、新学科の認知度を高める。

教育の充実

【目標】体験型学習や魅力のある授業を行うことにより、「海業」全般に関する基礎的な知識を習得させる。

【計画】学生一人に一台ずつ水槽を管理させ、水生生物の採集や飼育を体験させる。新任の教員が多いため、相互に授業を参観し、終了後に問題点を指摘し合うことにより、内容の改善を図る。

研究推進

【目標】科研費をはじめ競争的資金の獲得に努力する。教員間の学術交流を活発にする。

【計画】教員間で積極的な学術交流を行うとともに、科研費やその他の競争的資金への応募を積極的に行う。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】地元自治体と連携し、イベントや会議に積極的に参加することにより地域に貢献する。

【計画】兵庫県が設置予定の「ひょうご豊かな海づくり県民会議（仮称）」に参画し、漁場環境研究や学生による豊かな海づくり活動を進展させる。

国際化の推進

【目標】地域創成農学科と協力し、海外留学生と日本人学生との交流を促進する。

【計画】さなぶり祭等のイベントにおいて、魚介類を含めた様々な食材によるバーベキュー等を行い日本の食材についてよりよく理解してもらう。

外国語学部 外国学科学科の計画

学生確保

- 【目標】入学充足率100%を目標とする。
- 【計画】専願入試の応募者をどれだけ多く確保するかが重要であるため、これまでの取組みに加え、以下の取組みを工夫し実施する。
1. オープン・キャンパスにおける工夫：「保護者向けセッション」や「卒業生の活躍状況報告」などをプログラムに入れる
 2. 高大連携事業の活性化：高校における探求的な活動に対する積極的な支援、出前講義などの活用
 3. 積極的な情報発信：これまで以上に、大学ホームページや学科BLOGを活用し情報発信を強化する

教育の充実

- 【目標】学生たちが楽しく学び、自己効力感を育み、やる気スイッチを入れられるよう、教育の充実を図る。国際交流の強化。年間退学者0名を目標とする。
- 【計画】教育の充実においては、学びあい、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを授業により一層取り入れていく。海外教育提携校との積極的な国際交流を行い、学生同士が刺激しあって成長する機会を増やす。留学準備並びに退学防止のために、保健室カウンセラーによる入学生全員の個別面談実施、その後のフォローを学科一丸となっていく。

研究推進

- 【目標】各教員が研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。
- 【計画】学科研究紀要『グローバルデザイン論攷』を活用し、研究の活性化を図る。また、科研費等の応募を勧奨する。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】地域連携・地域貢献を推進し、学生リーダーなどの人材育成に取り組む。
- 【計画】岡山キャンパスが所在する地域の教育機関における交流イベントへの積極的な参加を行う。英語教員によるまちなかゼミナールへの出講を積極的に行う。「日曜子ども大学」など大学コンソーシアム岡山の事業への積極的な参加を行う。これら活動においては、学生のリーダー育成が課題であるため、主体的に行動できる学生の育成を日ごろから意識的に行う。

国際化の推進

- 【目標】国際交流を積極的に進める。
- 【計画】海外教育提携校からの夏季短期研修団の受入れ、日本政府の国際理解促進事業（かけはしやjenesys）への参画などに、積極的に取り組むことにより、学生の異文化理解の増進、国際感覚の醸成を行う。交換留学生を含む留学生と日本人学生との交流の機会を増やし、異文化理解や学びあいの機会を提供する。

アニメーション文化学部 アニメーション文化学科の計画

学生確保

- ・オープンキャンパスの魅力UPに努め、参加者増を図る。同時に、その受験率・入学率を向上させる。
- ・他大学に受験生が流れないように、R6年度からの新カリキュラムを策定する。
- ・岡山からでも都心のアニメスタジオへの就職が可能なことを、広く宣伝する。
- ・今後退職を迎える教員の代わりにアニメーション専門教員を順次確保し、学科の本質的な質の改善を図る。
- ・夏のオープンキャンパスに向け、学生作品を収めた同人誌を作成し、広く配布する。

教育の充実

- ・これまで以上に学生とのコミュニケーションに努め、学生の退学・除籍の防止に努める。
- ・アニメ業界の動向を踏まえた上で、R6年度開始の新しいカリキュラムを策定する。
- ・東京のアニメスタジオへの就職を視野に、1年生から4年生まで計画的な教育と就職指導ができるよう、その具体的な方法を検討する。

研究推進

- ・都心のアニメスタジオへの就職を目標に、それに対応した教授法や就職指導法を新に開発する。
- ・イラストを描くことが好きな学生が多いので、イラストを活用した絵本制作などの研究を押し進める。
- ・科研費申請については、常に誰かが応募している状態、常に誰かが資金を活用して研究を行っている状態を恒常的に確保していく。

地域連携・地域貢献の推進

- ・今年度も「ゲームジャム高梁」や「ICTクラブ高梁」の活動に学科として協力し、地域にデジタルの新しい風を吹かせる。
- ・アニメスタジオ（例えば倉敷ENGI）と連携して、地域の人々にアニメについての理解を深めてもらうための企画を立て、実施する。

国際化の推進

- ・コロナが収まった今、研修団の受け入れやオンライン授業の提供等、海外の大学との交流に改めて努める。
- ・留学生がアニメ関連企業に就職する場合、業界の慣例として最初は契約社員やアルバイトとしての採用となるため、入管が就労ビザを出さないという制度的な問題がある。AJPF（アニメ業界と教育機関との連絡会議）等の場で、問題提起を続けていく必要がある。

通信教育部心理学部 子ども発達教育学科の計画

学生確保

令和2年度より学生募集を停止しているため記載なし。

教育の充実

【目標】

令和2年度学生募集停止となったが、在学生の教育については人格の陶冶と専門性向上によるバランスの取れた人材養成に努力する。

【計画】

- ①テキスト科目については、科目担当教員が指定する教科書や参考書を用いた自宅学修であるが、科目単位認定試験については、コロナ禍において実施した在宅試験から対面試験に変更し、学力向上の実質化を図る。
- ②スクーリング科目については、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して、全科目を対面授業で行い、学修成果の向上を図る。
- ③実習科目については、実習先の事情にもよるが、実習設定期間内に実施し、学内学修と合わせて学修成果の向上に努める。
- ④退学者対策としては、チューターやゼミ担当教員による懇切丁寧な指導により、学生が気軽に相談できる環境を整え、退学者0名を目指す。

研究推進

【目標】

教員の個人研究ならびに共同研究の促進を図り、外部研究資金・補助金の獲得を促進する。

【計画】

高梁市の「次世代育成支援対策」に関わる研究を促進し、岡山県の子育て支援地域貢献事業補助金の獲得や、科研費申請・採択を目指す。

地域連携・地域貢献の推進

【目標】

高梁市内の子育て家庭に対する支援をはじめ、行政や各種団体の各種協力要請に可能な限り応需する。

【計画】

「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」事業として、市内各地域に出向き、アウトリーチ型の親子ふれあい活動を複数回実施する。また、教育委員会や各種団体の委員を複数受託し、地域貢献に努める。

国際化の推進

【目標】 異文化・国際事情の理解を深め、国際化・グローバル化時代の様々な国際問題の理解や取り組むべき課題に関する知識・洞察力を涵養する。

【計画】 授業科目として配置している「外国語(英語Ⅰ,Ⅱ)」や「多文化理解」、「国際社会学」等を未履修の学生には履修指導を行い、国際化の理解を深めるよう自己学修を促す。

社会学研究科の計画

学生確保

- ・博士(前期)課程、博士(後期)課程の入学定員100%を目指す。
ホームページ、論文・著書の公表、講演、学科の通常授業(学内進学)などを通じて魅力ある社会学研究科の情報発信を積極的に行う。

教育の充実

- ・学習満足度の向上のための教育環境の提供、きめ細かな研究指導(主指導教員と副指導教員2名)と留学生への日本語学習支援に力を入れる。
- ・退学者ゼロ%を目指す。
- ・大学院論叢25号(OB、OGの投稿)を刊行する。

研究推進

- ・各教員は科研の採択、外部資金獲得のために努力する。
- ・各教員は研究力レベルアップと研究科のブランド力を高めるために論文、著書の公表、学会出席および学会発表ができるように努力する。

地域連携・地域貢献の推進

- ・各教員は教育・専門分野を活かして講演、公開講座、ボランティア活動などの社会(地域)貢献活動に積極的に取り組む。

国際化の推進

- ・授業を通して異文化・国際事情などの理解の促進、留学生の日本国内の就職支援と学習支援(日本語教育)の充実、留学生と日本人学生との交流を図る。

保健科学研究科の計画

学生確保

- 【目標】入学定員充足率100%を達成する。
【計画】学会、SNS等で研究科の特色を広報する。カリキュラムが社会のニーズに対応していることをアピールする（指定規則の専任教員要件）。学部大学院一貫教育制度を促進する。

教育の充実

- 【目標】研究指導の質および学位の価値を高める。退学者0名を目指す。
【計画】研究指導は主指導教員1名、副指導教員2名で充実したものとし、学位論文を提出できるように取り組む。学位審査は主査1名、副査2名で厳密に行い、学位の価値を高める。懇切丁寧な対応で退学者0を達成する。

研究推進

- 【目標】研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。
【計画】研究科内での積極的な学術交流を推進し、大学院生、教員の研究活動の活性化を行う。教員には科研費等の競争的資金獲得を積極的に勧める。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】従来から取り組んでいる地域連携・地域貢献を継続する。
【計画】岡山県看護協会高梁支部副支部長、県内病院の看護研究指導、研修会講師（ACP、実習指導）、高梁医師会新興感染症対策委員会、ワークシェアリング就労支援プロジェクト、グリーンヒル順正等による園芸療法実践、高梁市介護予防教室、等の取り組みを継続する。

国際化の推進

- 【目標】国際学会発表や英語論文の執筆を勧める。
【計画】国際社会で活躍できる研究者を養成するために、英語論文の読解等を通して世界の研究動向について理解を深める機会を作る。

(通信制) 保健科学研究科の計画

学生確保

- 【目標】 入学定員充足率100%を達成する。
- 【計画】 広報活動を充実させ、通信制という本研究科の強みについて周知を図る。受験相談者が受験行動を起こせるよう研究科の特色をアピールする。

教育の充実

- 【目標】 研究指導の質および学位の価値を高める。退学者0名を目指す。
- 【計画】 研究指導は主指導教員1名、副指導教員2名で充実したものとし、学位論文を提出できるように取り組む。学位審査は主査1名、副査2名で厳密に行い、学位の価値を高める。授業は様々なメディアを活用し、良質な通信制教育を実施する。懇切丁寧な対応で退学者0を達成する。

研究推進

- 【目標】 研究活動に積極的に取り組む。競争的資金獲得を目指す。
- 【計画】 研究科内での積極的な学術交流を推進し、大学院生、教員の研究活動の活性化を行う。教員には科研費等の競争的資金獲得を積極的に勧める。

地域連携・地域貢献の推進

- 【目標】 従来から取り組んでいる地域連携・地域貢献を継続する。
- 【計画】 高梁医師会新興感染症対策委員会、認知症サポーター養成講座及び認知症サポーター連絡協議会、ワークシェアリング就労支援プロジェクト、グリーンヒル順正等による園芸療法実践、高梁市介護予防教室、等の取り組みを継続する。

国際化の推進

- 【目標】 通信制大学院生が国際動向を理解した上で今後の研究を検討できるようにする。
- 【計画】 国際社会で活躍できる研究者を養成するために、授業や研究指導を通して世界の研究動向について理解を深める機会を作る。

心理学研究科の計画

学生確保

博士(前期)課程の入学定員15名、博士(後期)課程の入学定員2名、それぞれについて、入学者数や定員充足率の向上に努めたい。本学の学部4年次生に向け、心理学研究の面白さ、心理的支援の社会的重要性などを理解させ、大学院進学に関心を持たせるように普段の授業で説いていくことを心がけたい。

教育の充実

令和4年度の博士(前期)課程の2年次生9名の平均GPAは3.57 (rangeは3.20～4.00)、また2年間の通算GPAの範囲は2.67～3.81を占めていた。1年次生6名の平均GPAは3.27 (rangeは3.00～3.50)であった。令和5年度は、2年次生も1年次生も前年度のGPAを上回ること、2年次生は全員が修士の学位を取得することがそれぞれ目標である。

研究推進

担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をこころがける。学会発表・論文作成が叶わなかった場合でも、著書・訳書の単独・分担執筆、研究報告書・書評・教育研究啓発文の作成など、執筆活動を記録として残せるように努める。

地域連携・地域貢献の推進

令和4年度は、地元高梁市を中心に15件の地域貢献が教員単独もしくは共同で行われ、地域の教育・保健(医療)・福祉分野などで広く成果を生んだ。令和5年度も、令和4年度並みの成果を達成できるように、今年度の活動の維持、発展を心掛ける。

国際化の推進

研究論文の英文化を各自で検討してみる。海外で開催される学会で発表を企図もしくは試みる。外国人留学生が入学した場合には、彼らへの教育・研究支援の充実を図る。海外の研究者と知己になる足掛かりをつくり、共同研究への発展を模索する。

(通信制) 心理学研究科の計画

学生確保

1学年の定員（3名）を満たすことができるよう、あるいは定員は満たせなくとも研究科に入学者を迎えらるるよう、入学の問い合わせには丁寧に対応する。

教育の充実

入学後、3年以上を経過し、現在在籍している2名の研究成果を学術誌に投稿することを積極的に勧め、メールによる指導や、夏期・冬期に行われるスクーリングでの研究指導を懇切丁寧に行う。

研究推進

担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をこころがける。学会発表・論文作成が叶わなかった場合でも、著書・訳書の単独・分担執筆、研究報告書・書評・教育研究啓発文の作成など、執筆活動を記録として残せるように努める。

地域連携・地域貢献の推進

研究科の性格から、院生個々の地域貢献は難しい。担当教員の地域貢献は、通学制の研究科同様、前年の維持・発展に努める。

国際化の推進

担当教員は、研究論文の英文化を各自で検討してみる。海外で開催される学会で発表を企図もしくは試みる。

地域創成農学研究科の計画

学生確保

目標：定員充足率100%を目指す。
計画：これまで通り学生には研究の楽しさを伝えるため努力するとともに、社会人を中心としたリカレント教育に移行することも考慮に入れ活動を行う。

教育の充実

目標：退学率0%を目指す。
計画：学生一人一人に寄り添い、丁寧な研究指導を行ない、学生の良い研究環境を提供する事により満足度の向上を図る。

研究推進

目標：競争的資金の更なる獲得。
計画：競争的資金の獲得を促進し、学部内の個々の教員が持っている能力を最大限に発揮、研究活動の活性化を図るために、教員間の情報共有を強化する。また、自治体や企業が実施する研究募集においても、科研費募集と同様に積極的に対応する。

地域連携・地域貢献の推進

目標：地域連携活動の更なる拡大。
計画：現状の取り組みを継続しながら、より広範囲の地域連携活動を行う。また、コロナ感染拡大の沈静化に伴い、淡路地域の活性化が予想される。そこで、新しいプロジェクトなどの活動を計画する。

国際化の推進

目標：留学生との交流促進。
計画：学部と同様に、留学生との交流ができるよう計画を進めていく。

(通信制) 連合国際協力研究科研究科の計画

学生確保
・入学定員充足率または収容定員充足率100%を目指す ・広報活動としてスタディサプリ社会人大学・大学院、国際協力キャリアガイド等への掲載、および入学前Web相談、オンライン入試の実施
教育の充実
・共通選択科目の充実/見直し ・オンライン（Teams）による懇切丁寧な教育・研究指導の実施
研究推進
修士論文の学術雑誌への投稿奨励および修了生へのフォローアップの実施
地域連携・地域貢献の推進
地域連携を図るため、南あわじ市津井地区でのフィールドワーク（地域調査法特論）の実施
国際化の推進
海外を調査対象とした研究の奨励

留学生別科の計画

学生確保

- ・別科入学定員充足率、大学への進学率、共に100%を目指す。
- ・別科入学前の面接、レベルチェック、セミナーなどの実施を強化する。
具体的には、①大学へ進学する意志があるかの確認。
②JLPTN4相当以上の日本語能力を所有しているかの確認。
③経費支弁能力の信憑性の確認。
④別科と日本語学校の違いを周知。

教育の充実

- ・学習需要や社会の変化に対応すべく、またそれらの理解の増進に資するよう、教育セミナー等への参加を積極的に行う。
- ・臨機応変に現場の状況に対応する柔軟な思考力、協力しあって仕事をするコミュニケーション能力を培い、体制の整備・充実を図る。
- ・将来のビジョンを明確にしてもらうために、より大学との繋がりを濃密にする。

地域連携・地域貢献の推進

- ・岡山市多文化共生推進ネットワークの構成員として、積極的に会議や集まりに参加し、周辺の学校や企業とのネットワーク構築に努める。
- ・常に留学生の目線で地域と外国人との関わりについて意見交換し、地域活性や連携体制の強化に努める。

国際化の推進

- ・既存の留学生の出身国(インドネシア、ベトナム、中国、カンボジア、スリランカ、ネパール)以外の国からの留学生の受け入れをし、より多国籍で“国際大学”の名に相応しい環境づくりに努める。具体的にはフィリピン、タイ、ロシア、インド、オーストラリア、台湾、マレーシアなどを検討。

